

# アキカラマツ

*Thalictrum minus var. hypoleucum*

キンポウゲ科

魚類

底生動物

爬虫類  
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(草花)  
在来種

(草花)  
外来種

哺乳類

(鳥)  
水辺類

(草原・樹林)  
ワシタカ

## 名前の由来

花の形がカラマツの葉に似ており、秋に開花することから名付けられた。漢字名：秋唐松

## 形態的特徴

高さ50~120cmになり、上方で多く枝分かれする。葉は丸みがある多くの小葉に分かれ、先は3~5に浅く切れ込む（2~3回の三出複葉）。花は径7~12mm、4枚のがく片の中心部から淡黄色の雄しべが多数（15個内外）とびでている。雄しべは細く長い薬の下に、細長い柄（花糸）がつく。多数の細かい花が、枝分かれした茎の上方に集まって咲く（円錐花序）姿が印象的。



アキカラマツ

## 類似種と見分け方

カラマツソウ、エゾカラマツなど、その他多数のカラマツソウ属の種。

アキカラマツの雄しべは細く長い薬の下に、細長い花糸がつくのが特徴で、カラマツソウ、エゾカラマツでは、雄し

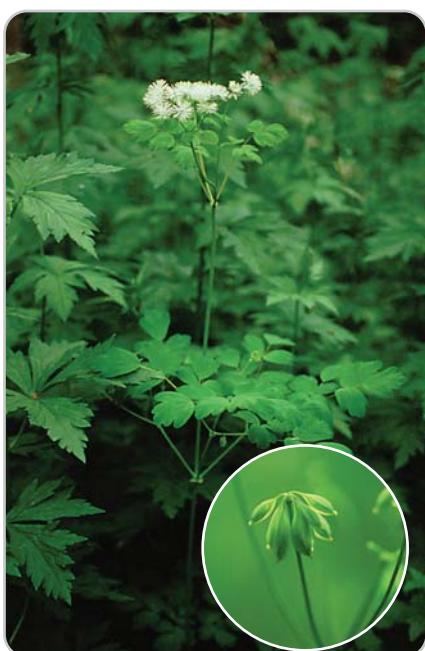
べの薬が短く、また花糸は薬の接続部で少し太くなる。カラマツソウ属の葉の形はどれもよく似ており、花の形で見分ける。開花期以外での同定は難しい。



アキカラマツ。  
円内は種子



類似種のエゾカラマツ。  
円内は種子。柄が短く種子は上を向く



類似種のカラマツソウ。  
円内は種子。柄が長く種子は下に垂れる

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

## 生育環境・分布

日当たりのよい山地や平地の草原、湿地、カシワ林内などに生育する。

**分布：**国外分布は、千島・樺太・朝鮮・中国（中北部・東北）  
・モンゴル。

国内分布は、北海道から奄美まで、ほぼ全国。北海道内分布は、全道。

十勝地方では、日当たりのよい山地～平地の草原や湿原、カシワ林内で普通に見られる。



アキカラマツ

## 生活史

開花時期：7～9月中旬

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

魚類

底生動物

爬虫類

トンボ

チヨウ

樹木

(在来種)

(外来種)

哺乳類

(鳥類)

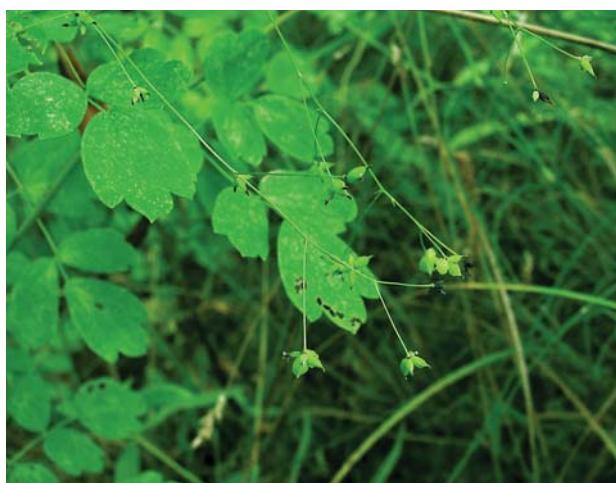
(草原・樹林)

## 興味深い話

■開花前の全草が薬用になるが、有毒成分のアルカロイドを含むため、多量に用いると血圧降下、神経麻痺などが起こる。適量用いると、下痢止め、健胃、解熱、解毒などに効果があるとされる。

■苦味が強く、牛も食べないということからウシイヤグサの別名もある。

■長野県高遠町ではタカトオグサと呼ばれ、茎や葉を煎じて胃腸薬として用いてきたという。



アキカラマツの葉と実

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社  
1982

「図説 花と樹の大典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗  
柏書房 1996

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992